

「福島県南相馬市における放射線量率モニタリングとその変動特性」

埼玉大学地圏科学研究センター 教授 渡邊邦夫

東日本大震災及び津波によって福島第一原子力発電所が水素爆発し、とくに福島県では広範な地域で放射性物質が降下し線量率が上昇しました。多くの地域の住民の方は、例えば下記の点で不安を感じられていると考えます。

- ・除染によって放射線量率がどの程度変化するか。その効果は持続するのか
- ・将来的な、山地などからの放射性核種の移動と放射線量率の上昇の可能性

これらのご心配に対して、埼玉大学地圏科学研究センターでは、南相馬市の相双 NPO センターと共に、放射線量率を監視し、その変動を分かり易く情報提供するシステムの開発研究を行っています。システム開発にあたっては住民の方の意見を頂いて改良しています。今回のフォーラムでは、その研究の意義や成果について紹介いたします。原発事故にとどまらず、大災害の後では住民の方の不安を少しでも軽減するよう、地域に合った情報提供システムを開発する事が研究機関に求められていると考えています。

「宮城県における災害廃棄物の処理と石巻ブロックの現状について」

鹿島建設株式会社 青山和史

東日本大震災により、我が国ではこれまでに経験したことの無い大量の災害廃棄物が発生しました。宮城県においても、約 1000 万トンの災害廃棄物と約 700 万トンの津波堆積物が発生し、現在処理が進められています。石巻ブロックでは、2011 年 10 月から中間処理施設の建設を、2012 年 5 月から処理を開始し、今年度内の処理完了に向けて、佳境を迎えています。本報告では、石巻ブロックにおける災害廃棄物の処理について、具体的に方法と進捗、見えてきた課題を紹介します。

「埼玉県の震災対策－復旧・復興期の対応－」

埼玉県危機管理防災部 危機対策幹 保坂優次

未曾有の災害をもたらした東日本大震災から、2 年半が過ぎました。震災直後の応急対策に比べると、現在被災県で進行中の復旧・復興の取り組みについては、メディアによる報道の頻度が少ないということもあり、良く見えないというのが実感ではないでしょうか。大震災からの復興については、その完了まで 10 年という、息の長い取り組みといわれており、なかなか全体像がつかみにくいということが言えるかと思えます。埼玉県においても、首都直下地震が切迫しているといわれ、大規模な被害が予測されています。そのような場合に、埼玉県が震災からの復旧・復興をどのように考えているのか、埼玉県地域防災計画の記述をもとに、過去の他県の震災復興計画の事例なども参考にしながら、紹介したいと思えます。